

製図用具は、試験で使用する**必要最小限**の用具を写真で紹介する。

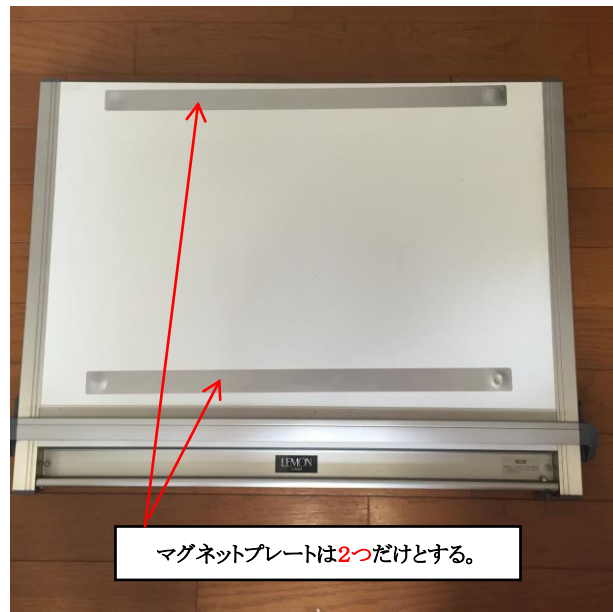
この必要最小限とは、研究会が推奨する**ベストな用具**のことであり、その用具だけで試験に臨んだ方が、素早く作図できるだろうと提案しているものである。製図試験は、**時間との勝負の試験**であることから、製図用具の選定もスピードを重視して選定した方が良い。

試験用紙の止め方、蛍光ペンの種類、使用し易くする用具整理箱まで、全てにおいて時間短縮を念頭に準備する。エスキス、記述、作図の全てで、たった6時間30分しかない試験である。下記は、研究会推奨の一例であるが、参考に見て下さい。

(1) 製図板

製図板(平行定規付)は、必ず必要である(写真参照)。試験場持込み可能なものであれば、どのメーカーでも良い(どのメーカーも使用上殆ど変わらない)。過去の受験者から貸与することが可能なら、それでも良い。

ここで研究会が推奨するのは、A2試験用紙を止める場合、長い**マグネットプレート2つ**だけによる上下の固定方法である。一般にマグネットプレートは、上下左右の4ヶ所を止めて使用されている。実際に試してみると分かるが、上下の長いマグネットだけでも十分固定が可能である。数秒の差であるが、スピード重視からマグネットは上下2本だけで慣れると、その分早くなる。なお、ドラフティングテープで試験用紙を止める方法もあるが、こちらは、それなりの時間を要することからお勧めできない。



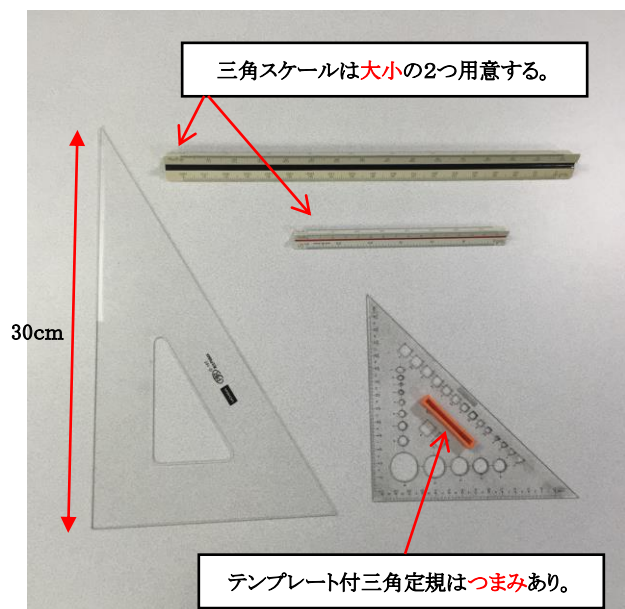
(2) 定規

定規は、三角定規、テンプレート付三角定規、三角スケール(大・小)である(写真参照)。

三角定規は、30cmの大きなものとする。これは、最初の通り芯や寸法線など長い縦線を書く場合だけに使用する。1階と2階のプランは、試験用紙で左の上下に配置される。従って、7×7グリッド又は7×6グリッドの縦ラインは、1階と2階で一気に通り芯を引くこととなる(つまり30cm三角定規が良い)。それ以外の縦線は、下記テンプレート付三角定規を活用する。

テンプレート付三角定規(バンコ三角定規45° テンプレートプラス又は日建学院オリジナルテンプレート付三角定規)は、殆どの縦線と、柱の四角などをテンプレートで書くためのものである。このテンプレートは、持ちやすいように**つまみ**も付いていることから、慣れると全体的に早く書けるようになる。

三角スケールは、寸法線を測る場合の大(30cm)と、エスキス1/400などで使用する小(15cm)の両方あった方が使いやすい。なお、三角スケールに7mピッチに赤マジックなどで目印を付けるのは違反となるので注意して下さい。



(3) 筆記用具

筆記用具は、シャープペン(0.5mm、0.9mm)、赤ボールペン、蛍光ペン(黄色、赤色)、消しゴム(通常プラスチック消しゴム、スリム型ホルダー付消しゴム)である(写真参照)。

シャープペンは、濃さをBとして、0.5mmと0.9mmの2種類とする。0.9mmは、柱を書くときだけに利用し、それ以外は全て0.5mmを利用する(記述も0.5mmシャープペン)。柱のみを0.9mmとすると、柱が濃く浮き出るので図面全体にメリハリが付いたものとなり、図面の印象点を上げることができると考えている(0.5mmで四角のテンプレートで柱を書く以外にポキポキ芯が折れるので、その防止にもなる)。なお、0.5mmシャープペンは、万一の故障などを考慮して予備を持っていくことをお勧めする。

赤ボールペンは、最初の課題読みのかきのチェックペンである。蛍光ペンは、黄色が1/1000エスキス終了後のチェック、赤色が作図終了後の最終チェックのためのものである。

消しゴムは、全体を消す場合にプラスチック消しゴムを利用する。また、部分的な箇所を消す場合は、スリム型ホルダー付消しゴムを使用することで、字消し板を使用しないこととする(字消し板は意外に時間を要する)。なお、1/400エスキスから作図する場合、消しゴムは一切利用しないように訓練したい(消す作業は意外に時間を要する)。

(4) その他

その他の用具は、はけ、電卓、時計、用具整理箱、コンパスである(写真参照)。

はけは、通常のものであり、消しゴムのカスを払うにも利用するが、柱書き終了時などのシャープペンの芯の粉を払うために利用する。手で払うと図面が汚れてしまうので、はけを利用する。図面があまりに汚れていると、印象点が下がるものと推定している。

電卓は、面積計算するときなどのため利用する。プログラム機能が付いているものは利用できないので、あまり大きくない単純計算ができるものを購入する。

時計は、腕時計を机の上の見やすい場所に置くと良い。事前の練習時も右上か左上の自分が見やすい方に置いておき、時間確認の癖をつけた方がよい。

用具整理箱は、100円ショップなどで中に仕切りのあるものを購入し、シャープペン(0.5mm、0.9mm)、赤ボールペン、蛍光ペン(黄色、赤色)、スリム型ホルダー付消しゴム、三角スケール(15cm)、コンパスを入ると良い。右写真は、各用具を入れた例であるので、参考にして下さい。

コンパスは、課題に「5mの円が入る」などの指示が出た場合に使用するが、課題によっては使用しない場合もある。試験中に焦らないように、事前に準備した方がよい。

それ以外に考えられるのは、飲み物やタオルなどである。間違っても試験中に食事を取るなどは考えないようにしたい。必死になって17:00まで作図を終了させ、見直しの時間を少しでも多く確保すべきである。

